

題目	健康・医療・環境の融合による市民参加型コミュニティ農業プロジェクトに関する研究
著者	弦間正彦

研究プロジェクト「農地と里山が結ぶ多世代参加の医農福連携モデル」の一部として、定量化指標検討グループとして活動を行った。

調査・研究の概要

生産物の高付加価値化と、これに結びつく社会・経済的意義を明確化する情報提供のあり方に関して、非仮想的な条件のもとで、異なる情報によって消費者の顕示する支払い意志額に発生する差を、統計的に分析して、政策的含意の導入を行った。

具体的には、福祉と農業の連携に関して理解を深めるためと分析の枠組みを確立するために、ソーシャルファームである埼玉福興社において有機栽培・加工されたオリーブオイルを使い、合計 115 名の被験者の参加を得て実験オークション法を用いた経済実験を 9 回行った。その上で、障がい者を含む労働者への支払いを確保した上で、生産物の付加価値を最大化する情報の内容とそれを生かす経営戦略について考察を行った。

調査結果

1. ソーシャルファームの社会的な貢献についての情報は、消費者の食品に対する支払い意志額に差をもたらす。ソーシャルファームについての詳細情報をもつ価格プレミアムは、有機栽培に関する詳細情報より高い。
2. 有機栽培の定義とその生産者と消費者に対する便益に関する情報は、消費者の食品に対する支払い意志額に差をもたらす。
3. 食の安全を意識する消費者は、有機農産物についての情報に対する経済価値をより高く評価する。
4. 福祉に関心の高い消費者は、必ずしもソーシャルファームについての情報に対する経済価値をより高く評価しない。

この基礎調査・研究により、ソーシャルファームという生産組織を用いた共生社会の実現に向けた試みが存続する条件の一部が明らかになった。

表 1 ソーシャルファームと有機栽培に関する情報の違いと支払い意志額

種類・ラウンド別 (提供情報の内容)	支払い意志額平均値 (円/50ml)	変動係数
A1 (市販のオリーブオイルの価格帯を提示した)	36.32	1.14
A2 (植物油の一般的な健康効果に関する情報)	38.51	1.09
A3 (AはソーシャルファームでAとBは有機栽培であること)	54.44	0.97
A4S (ソーシャルファームの詳細な説明)	63.36	0.78
A4O (有機栽培の詳細な説明)	60.30	1.01
A5O (有機栽培の詳細な説明)	69.12	0.75
A5S (ソーシャルファームの詳細な説明)	76.23	0.92
B1 (市販のオリーブオイルの価格帯を提示した)	28.49	1.24
B2 (植物油の一般的な健康効果に関する情報)	27.83	1.29
B3 (AはソーシャルファームでAとBは有機栽培であること)	35.36	1.24
B4S (ソーシャルファームの詳細な説明)	39.42	0.86
B4O (有機栽培の詳細な説明)	37.58	1.05
B5O (有機栽培の詳細な説明)	41.36	0.85
B5S (ソーシャルファームの詳細な説明)	38.78	1.08
C1 (市販のオリーブオイルの価格帯を提示した)	32.74	1.23
C2 (植物油の一般的な健康効果に関する情報)	28.79	1.23
C3 (AはソーシャルファームでAとBは有機栽培であること)	20.75	1.24
C4S (ソーシャルファームの詳細な説明)	15.26	1.12
C4O (有機栽培の詳細な説明)	17.35	1.48
C5O (有機栽培の詳細な説明)	13.26	1.30
C5S (ソーシャルファームの詳細な説明)	21.74	1.92

注： Aはソーシャルファームが有機栽培したオリーブオイル、Bは市販の有機栽培されたオリーブオイル、Cは市販の非有機栽培によるオリーブオイル A、B、Cの後の数字はラウンドを表す。

本研究は、JST-RISTEX からの受託研究資金によって行われました。